

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス : kaikoku@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス : <http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>

令和元年度生徒成果発表会

令和元年度 東京都産業労働局島しょ農林水産総合センター大島事業所の成果報告会を本校で実施しました。例年は、北部の大島支庁の方で開催されているのですが、出来るだけ本校生徒に聞いてもらう機会と考えていただき、本校で開催することになりました。

事業所からは3名の方が発表されました、最初は、東京都が所有する日本の海域の説明と新しくなった調査船「やしお」が出来るまでと実際に何をしているかを紹介するDVD市長と解説でした。実は、東京都は日本で一番広い海域を担当していること、その広大な海域を4つの調査船で取り締まりや調査していることを紹介していただきました。2番目は、漁獲対象魚があまりにもキンメダイに依存しすぎているために、別の魚種を漁獲対象として考えよう（分散）という目的から3種（アブラボウズ、クロシビカマス、ハチビキ）の魚の可能性を紹介していただきました。3つ目の発表は、大島近海の水温上昇に伴って増加しているとの報告がある「ハマフエフキ」という魚の食性（どうも水産資源、特に高級食材のイセエビやトコブシを狙うらしい）調査と漁獲後の販売先の探索（今回は沖縄への出荷を利益率などを計算して算出）結果についての発表でした。なかなかこういった発表では人前で質問等をする人は少ないだろうと考えていたのですが、本校の生徒は予想に反して発表後、活発に質問していました。時間が限られていた関係で途中で切り上げるくらいでした。

最後は本校3年生の青砥君と湧上君による大島の火山岩を利用したカキの種苗生産の可能性についての発表でした。発表内容は、大島の産業活性化に役立てる方法を考えていた際に、未利用資源の利用と実習船に係留している岸壁のカキの種苗を作って、養殖現場に売却することで産業活性が狙えるのではないかというきっかけでした。実際に、カキの種苗生産現場で使用されているケアシェルというものと大島の海岸から拾ってきた火山岩を海中に入れることでカキの種苗が同等で得られる結果を導きました。これを拡大して、大規模な数が生産できれば地域の活性化も夢ではないかも、しかしまだまだ改良すべき点がいくつもあるということでした。話し方やシートの移動が合っていない箇所が多々あるなど、練習不足が露呈した場面があったのが残念でしたが、その熱意は後輩にも伝わったはずです。ぜひ、来年度以降もこの研究が続くとよいですね。

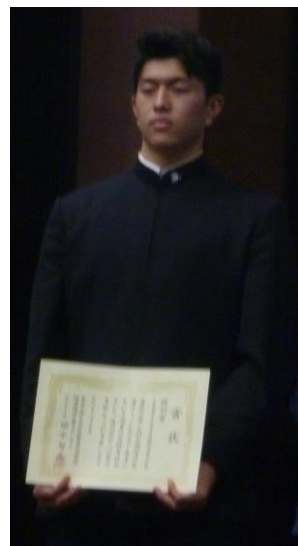
この報告会后にアンケートを書いてもらったところ、希望して聴講した生徒が全員が満足という回答で、来年度以降も是非この行事が継続できるように関係者に働きかけ、今後参加する地域の方、生徒数が増えることを期待しています。



第7回全国海洋教育サミットに参加しました

2月15日(土)に東京大学で開催されました海洋教育サミットに3年前田君が参加し、ポスター発表をしました。新島の現状と未来というタイトルで、出身の新島で体験した水産業の衰退の実態をより詳しく探るため、また産業の復興を目指すためのヒントを探るためにアンケート調査を実施しました。その結果とそれに対する考察をポスターで観覧者に向けて熱く語っていました。

その後、本人、指導者である私も驚きの事が起きました。毎回発表に対し、審査員による最優秀賞・優秀賞が決定されるのですが、予定していない本当に異例の審査員特別賞が急遽設定され、なんとその賞に前田君が選ばれました。授賞理由は、彼の将来につながる発表内容と丁寧な説明に審査員が心を動かされたからだそうです。是非、今回の受賞を機に、大学進学後も精進して本当に新島の水産業の発展に貢献してもらいたいですね。



カメラアマラソン大会

今年は2月2日にカメラアマラソン大会が開催されました。大島海洋国際高校では、毎年この町のマラソン大会に学校行事として参加させていただいています。当日は天候にも恵まれ、生徒たちは気持ちよく走ることができたのではないかと思います。何はともあれ、生徒のみなさん、お疲れ様でした！それでは、今大会について簡単にまとめてみたいと思います。

まず、男子の部(10km)です。こちらは、ここ数年で最も白熱した首位争いが見られました。しかし、結果は昨年度に校内上位入賞した生徒を抑えて1年生が校内優勝を飾りました。1位と2位の差は8秒差でした。また、他の上位入賞者を見ると、上位10名の中に2年生が6名、1年生が4名という結果となりました。上位入賞者は1年生に譲ったものの、2年生がここまで体育の授業や部活を通して積み重ねてきた努力の成果が入賞者の数に現れたのだと思います。

次に、女子の部(5km)です。こちらは、昨年度の大会で本大会でも上位入賞した生徒が優勝を飾りました。しかし、男子同様僅差の戦いが繰り広げられていたようで、1位と2位の1年生のタイム差は11秒でした。また、他の上位入賞者を見ると、上位10名の中に2年生が7名、1年生が3名という結果となり、2年生が上級生としての意地を見せつけた形となりました。

以上の結果からもわかるように、校内上位入賞者の数を見ると2年生(13期生)が上級生としての力を見せつけた大会になりました。しかし、1年生(14期生)には校内上位入賞者も出ています。来年度は、フレッシュな1年生(15期生)に力を見せつける、引っ張っていくのはあなたちです。今後の授業や部活で自身にできることを積み重ね、来年の良き結果につなげてもらいたいと思います。そして、2年生(13期生)のみなさん。多くの人たちが、こうした行事に全力で取り組むという大島海洋国際高校の良き伝統を体現してくれました。本当に良い姿を見せてくれました。ありがとう！こうした伝統が次代に引き継がれていくことを願っています。受け継げ後輩たち！

最後になりますが、今大会の運営に携わってくれた運動委員のみなさんお疲れ様でした。今年度は開閉会式を運営する体育館も変わり、勝手がわからず大変だったと思います。そうした中でもよくやってくれました。本当にあなたたちの活躍なくして、体育行事のスムーズな運営はあり得ません。本当にありがとうございました。生徒のみなさんも、こうした行事の陰には、運動委員の人たちのように支えてくれている人たちがいることを絶対に忘れないでください。

なお、修了式に行う予定となっていた校内上位入賞者の表彰は、4月の始業式に変更いたします。ご了承ください。